

第1回粟国空港PI評価委員会 議事要旨

- ① 日時 平成21年10月29日(木) 10:00~12:00
② 会場 オーガストインク久茂地 LB階 会議室
(沖縄県那覇市久茂地3-1-10)

③ 出席者

粟国空港PI評価委員会委員

沖縄国際大学 経済学部 教授	大城 保 (委員長)
琉球大学 工学部 教授	堤 純一郎
フリージャーナリスト	崎山 律子

粟国空港協議会

粟国村長	新城 静喜
沖縄県 土木建築部 参事	滝澤 裕

④ 議題

- (1) 粟国空港の拡張整備について
- (2) 粟国空港PIの進め方について
- (3) PI実施計画書(素案)について
- (4) その他

⑤ 配布資料

- 資料1：粟国空港の拡張整備について
資料2：粟国空港PIの進め方について
資料3：粟国空港拡張事業に係るPI実施計画書(素案)

1. 委員長挨拶

「栗国空港の拡張整備事業にかかるPI実施計画」ということで、このPIの実施が、公平・適切に進行できるよう、この評価委員会がスムーズに進んでいければと考えております。

堤委員、崎山委員におかれましても前回の伊平屋空港のPIの際にご一緒でしたので、PIの進め方について、私自身も含めまして、勉強させていただきましたので、前回にもましてスムーズに進んでいけるのではと考えております。

ただし、この事業の採算性や妥当性を含めまして、県民のみなさまに納得していただけることが重要と考えておりますので、その意見の集め方などについて、委員のみなさまの方から、是非積極的な議論をお願いしたいと考えております。この計画・取り組みが、スムーズに進行できるよう努めて参りたい。

2. 議事における主な発言内容

(大城委員長) 議題が、3つその他を含め4つあります。特に資料1(拡張整備)と資料2(PIの進め方)については、どちらかと言いますと事務局からの報告に近い側面がありますが、資料2のPIの進め方については、この評価委員会ですっきりと審議が必要と考えております。資料3の実施計画書(素案)に重点的をおきながら審議していき、拡張整備や進め方・スケジュールについても審議したいと考えております。

(1) 栗国空港の拡張整備について

(議案1:資料1)

(事務局) 資料1について説明

(大城委員長) 栗国空港の拡張整備事業の必要性を訴える必要があり、文章を工夫する必要がある。その際、小学生や島民の多くを占める高齢者が読んでも理解できるようにしなければならない。

(協議会:滝澤) 空港整備を検討してきた背景では、「定期便を就航していた航空会社の撤退が明らかとなっていたので、定期便を復活させるためには、滑走路の拡張が必要である」ということで、わかりやすい背景がありました。現在では、関係者のご尽力により、別の航空会社により不定期で航空路が確保でき、整備の必要性がわかりづらい状況があります。

PI活動では、必要性や可能性を今後精査してわかりやすく工夫をし、空港整備ありきではないPIを実施する。

(事務局) マンガを入れるなど、小学生や高齢者に対してわかりやすく作成したい。

(崎山委員) 島と本島を結ぶ交通が整備されても、映画のロケ地となるなど、島にソフト施策がなければ人は来ない。平成13年から平成15年には約5万人の往来があったが、公共事業以外にも島で何が起こっていたのか分析して、ソフト施策を検討する必要がある。

(大城委員長) 需要と供給のどちらを先に整備するのかを考えると難しいが、離島振興と活性化を考えるうえでは供給を先に整備する視点も必要である。

(2) 栗国空港PIの進め方について

(議案2：資料2)

(事務局) 資料2の説明、第2回評価委員会の開催時期についての照会

第1回評価委員会を開催後に第2回評価委員会を来月11月に開催を予定しておりますが、実施計画書(素案)に対して、修正意見等が少なければ、公表意見募集をした後の12月に開催するような進め方もよいとも考えており、委員のみなさまにお伺いしたい。

(大城委員長) 事務局から照会のあった、第2回の開催時期については、議案3を審議した後に修正意見などの状況を踏まえ、再度確認します。平成21年12月の「実施計画書の決定」は、栗国空港協議会が最終決定をするのか。それなら、第2回協議会を平成21年12月に開催し、栗国空港協議会を全体で3回開催するべきではないか。

(事務局) 実施計画書の最終的な決定は、第2回栗国空港協議会を開催し、決定します。

(3) PI実施計画書(素案)について

(議案3：資料3)

(大城委員長) 本日の中心議題でありますので、より丁寧に議論をしていきたい。

(事務局) 資料3の説明

(堤委員) 栗国空港の拡張整備事業は、「生活の安定」、「地域振興」の二つを目的としているが、この2点で事業の必要性を説明すると、空港整備に向かうような誘導尋問的な意見の収集になる恐れがある。

バランスをとりながら、説明(情報提供)していくわけですが、「うんと必要ですよ」というと何となくそういう方向へ意見が流れ易いと思います。現状の説明と、その将来の展望をどのような組み合わせで説明できるのでしょうか。その説明バランスが難しい。拡張整備を実施した場合、どんな効果があり、何ができるようになるのか、シナリオを示すことはできないか。

(協議会：滝澤) 実際の(情報提供できる)内容は、第3回PI評価委員会で評価いただくこととなります。

空港整備を仮に実施する場合、「どのような形で整備できるか」「需要はどうか」、「旅客がどうみこまれるか」「その費用はどれくらい見込まれるか」「どのような形でやればできるか」ということがらを実際にまとめていくとおもいます。

ひとつは、報告書の内容について、わかりやすく情報を提供していく形になります。それに加えて、現在就航している航空会社の状況、郵便・新聞などが運べないなど、基本的には事実をわかりやすい形で記載して、報告書をまとめていく進め方になります。

それらの情報をみていただいたうえで、現状で「各みなさんが抱えている不便など」や「それをどう考えていらっしゃるか」を率直に意見としてお伺いする。そのような意見の集め方になると考えております。現段階で手順でしかお示しできず、具体案がない段階では想定しづらいです。

(堤委員) もう少し具体的に言うと、

「空港整備ができた場合は、こうなります。」とか

「空港整備ができなかった場合は、このままで、こうなります。」

「将来的にこういった形にもっていきたい」というようなシナリオみたいなものを、それを盛り込むかどうかだと考えますが、どうでしょうか。

(協議会：滝澤) PIは「透明性の確保」を基本としておりますので、選定過程の中身を照会し、基本的には事実を照会して、みなさんにどう考えるかというご意見を伺う形になります。「整備する場合や整備しない場合に誘発されてこうなる」ということについては、かなり精度の高い内容であれば、記載できるかもしれませんが、「こういう施策をさらにやっていく」というような「さらなる施策」を含めた情報は記載できないと考えております。

栗国村の将来構想として、「こういうことを考えております」というようなことがあれば、PIの中で、項目をわけていくことはできるかもしれない。

(崎山委員) PIでは、各個人の率直な意見を聞きたい。PI実施の目的の書き方が難しい。地方空港に対する国の考え方が大きく変わった。RACによる路線復航も日本航空グループの動向に大きく左右される。航空会社の状況は伊平屋空港の時とは異なる。このような現実を客観的に見つめる必要があり、たとえ多くの村民の合意が得られたとしても、その後、に厳しい現実があることも考えておく必要がある。

現栗国空港の滑走路長では定期路線を復活することは本当にできないのか。村民や栗国を好きな県民の率直な意見を聞きたい。また、このPI活動を利用して村のPRをしたい。

空港の拡張は海を埋め立てる以外にないのか。むしろ土地改良事業区の方に伸ばして、海はなるべく壊さないという発想はないのか。今の航空会社が一人でも運航するのであれば不自由はないのではないのか。需要もそれほど多くないのではないのか。島の人々が求めているのか、地域振興にどのように寄与するのかなど、説得力が弱い。

そういう意味で空港の拡張ありきというPIではなくて、「本当に空港というものが、村民にとってどうなのか」ということを率直に聞いて、なおかつ「栗国が好きか？」県民を含めて「どんな人たちがどんな意見をもっているのか」ということを知ることができる、しっかりアピールするチャンスそのようなPIになったらと考えております。

先ほど委員長が、資料の記載で説得力が弱いという意見がありましたが、やはり説得力も含めて、「現実をどう受け止めるか」ということを問うということでは、前回の伊平屋空港でのPIとは違うと考えています。

(大城委員長) まさにそのとおりだと思います。今後は、「島が、島のみなさんが、自分が、思っていることと心から正直に話す」そのことが、ひいては、「ひとを動かしていく」ということが大きなポイントのような感じがします。

意見の収集においては、素案で7割の目標となっていますが、栗国村としては8割から9割の思いを込めて、できるだけ全村民に伝えていただけるような雰囲気づくりを、区長会などをおして、「空港がどのような位置づけなのか」とかいろいろな説明会などで「みんなでお答えしようよ」というような雰囲気づくりができないものか思います。

(協議会：新城) 土地改良事業区には抵触しないようにギリギリ延長し、足りない部分は海側に延長する方向で整備したいと考えている。

委員のみなさまのご意見のとおり、離島の良さを、環境を保ちながら、私たちは、県内でも850数名世帯数400幾あまりで、県内の中でも高齢化が進んでいます。65歳以上の方々が850数名中300名あまりで高齢の方々です。お年寄りから聞く意見も、粟国村の100年先を見据えた上でも、7割でなく8割から意見を伺えるよう取り組みたい。

現在、空港の必要性については、高齢の方々が、特に「病気になっても、お子さんに会えない」のではないかと「わたしが生きている時に是非空港を拡張してくれ」という声などもありますので、みんなの意見を集約して、粟国空港の拡張ありきではなく、粟国空港については、新しく建設するわけではなく、現空港の拡張ということですので、そのあたりは住民の意見を聞けると思います。

ただ、拡張整備ができた後に、日本航空のグループである RAC が、果たして復航していただけるのか心配はありますが、やはり島の活性化、島に安心して那覇との往来ができるためには、住民の意見を尊重しながら、進めていく必要があると思います。

(大城委員長) そういう意味でも、お年寄りが応えやすいよう、お年寄りのみなさまの意見を伺うわけですから、文字を大きくするなどの工夫をして欲しい。過去5万人の利用者があったこともある。航空路の整備とともに地域振興を掘り下げて検討していく必要がある。

(堤委員) 島と那覇を結ぶ路線だけでなく、離島間を結ぶ路線（アイランドホッピング）があってもよい。複数の村と協力して離島航空路ネットワークはできないか。

(大城委員長) 南大東空港や北大東空港の就航形態も踏まえながら、検討できると思います。その意味でも、次回の評価委員会の開催を粟国島で開催したい。

(協議会：新城) 久米島を経由する案も考えられるが、それは航空会社が決定する。

(堤委員) 実施計画書に関する意見収集は、実施計画書の中身ではなく、必要性などに踏み込んだ意見が多くなってしまわないか。

(事務局) 伊平屋の時は10件程度しか意見が得られなかった。内容も実施計画書の中身に関する意見はほとんどなかった。高齢者にもわかりやすく意見収集する必要がある。

(大城委員長) P1実施計画書の方向性や内容はこれでよい。8頁以降のP1活動の実施手法等は、P1活動の流れにそって項目番号を工夫すると見やすい。

(崎山委員) 沖縄の島民は、区長などの地域のボスが意見を言うと、その他大勢の人々は、強い立場の人の思いや意見に従う傾向にある。一人一人の率直な意見を集める工夫が必要である。

(堤委員) P I 実施計画書のダイジェスト版を作成して各戸に配布してはどうか。

(事務局) ダイジェスト版の作成については検討したい。

(崎山委員) P I 活動のラジオによるPRは、時間帯までは、記載はしなくてもよいが、どこの放送局なのかを丁寧に記述する必要がある。

(大城委員長) 実施計画書(素案)について、大きな修正はないと思いますが、第2回の評価委員会は、原案どおり、意見募集の前に開催し、意見の募集方法を審議したい。

意見募集の結果を踏まえて、最終案に対しても、評価委員会で審議するかどうか事務局にも考えていただきたい。【宿題：意見募集の方法・あり方に丁寧な工夫を】

第1回の評価委員会では、実施計画書の方向性について良いと考えますが、意見の募集方法について、第2回で審議できるよう取り組んでいただきたい。

以 上